

ミツバチかんさつ

西原村立山西小学校 3年 米田 ともや

1 研究のきっかけ

おじいちゃんが春から家の庭でミツバチをかい始めた。観さつしてみると①1日の時こくによって、出入りするハチの数がちがうこと、②巣ばこの入り口に、とまったままのハチが何匹かいることがわかった。それで、この2点についてくわしく調べてみることにした。

2 観さつの方法

- (1) 1時間ごとに巣ばこの写真をとる。
- (2) 気温をはかって、ハチの数や様子を調べる。

3 よそう

- (1) ハチの数がちがうのは、気温が関係していると思う。
- (2) 巣ばこの入り口にとまっているハチは何かの役わりがあると思う。

4 けっか

	8月17日	巣箱の温度	8月18日	巣箱の温度
8時	巣ばこを出入りしている。	26度	出入り口で羽を動かしている。	26度
14時	出入り口のハチがふえた。	31度	出入り口のハチがふえた。	28度
20時	外に出てくるハチがふえた。	27度	羽をふるわせて巣ばこをひやしている。	25度

5 まとめ

ハチの数は気温ではなく巣の中の温度が関係している。ハチが出入り口にたくさん出てきたのは、巣ばこの中の温度が高いときだった。出入り口でハチはみんな羽をバタバタさせていた。このことから、出入り口にいるハチは、巣ばこの温度を下げるために羽をふるわせて中に風を送っていることがわかった。

夕方になると、ハチはどんどん巣ばこから出ていった。はたらきバチがミツを取りに行っているようだった。となりの巣ばこに行くハチもいた。このことからハチにはいろいろな役わりがあることがわかった。

6 感想

ハチは、それぞれに役わり分たんをしていてすごいと思った。空気を入れかえたり、入り口で見はりをしたり、ていさつに行ったり、それぞれの仕事をしている。女王バチの子育てを助けるためにみんなが協力しているハチはすばらしいと思った。